

昭和 37 年（1962 年） の焼岳噴火について

焼岳火山防災協議会



写真提供：奥原貞司氏

はじめに

昭和 37 年（1962 年）6 月 17 日午後 9 時 55 分頃、長野県と岐阜県の県境にある北アルプスの焼岳が突如、噴火しました。この噴火で発生した噴石や火山灰などにより、当時の焼岳小屋が大破。従業員 2 名が負傷しました。焼岳火山防災協議会では、過去の噴火の様子を伝え、焼岳が噴火したらどのようなことが起こるのかを知ってもらうために当時の写真や新聞、地元の方の証言等を収集しており、現時点でまとめたものを公表します。

焼岳の火山活動について

■焼岳の概要

焼岳は北アルプスの岐阜県と長野県の県境に位置する標高 2455m の山です。平常でも噴気活動が盛んな活火山です。



中尾峠付近から見る焼岳

■主な火山活動

年代	噴火様式
約 4000 年前まで	溶岩流出を伴う活動が複数回発生（推定）
2300 年前	最新のマグマ噴火（推定）
685 年(飛鳥時代)	水蒸気噴火（推定）
延享 3 年(江戸時代) (1746 年)	水蒸気噴火（推定）
明治 40 年～昭和 14 年 (1907 年～39 年)	ほぼ毎年のように水蒸気噴火が発生。大正 4 年(1915 年)の噴火では大正池が形成された。
昭和 37 年～38 年 (1962 年～63 年)	最新の水蒸気噴火 噴石等により当時の焼岳小屋が大破し、従業員 2 名が負傷した。



正賀池火口(1907-1911 年活動)



隠居穴火口(1911 年形成)

昭和 37 年 (1962 年) の噴火

昭和 37 年(1962 年)、6 月 17 日午後 9 時 55 分頃、大きな音とともに焼岳で水蒸気噴火が発生。翌 63 年に活動が収まるまで、断続的に噴火を繰り返しました。この噴火により山の中腹にあった当時の焼岳小屋が大破し、従業員 2 名が負傷しました。



昭和 37 年噴火時、噴煙を上げる焼岳 (撮影日時不明)

写真提供：田原浩之氏